



小篆庵三代通福

俳

楷

# 名家新題林

江府

中山居藏

多

藏

小篆庵主碑影光  
人累時以從歌擅  
名於都六人本  
情後通似西書法



余每逢文場筆酌  
從搦少及詩人  
沈碑之有異也  
人以弘化三  
世矣門人游者編

集老人及先師長  
翠後嗣若以鳴  
律句多事本  
少冊子以資初學  
字用激書以



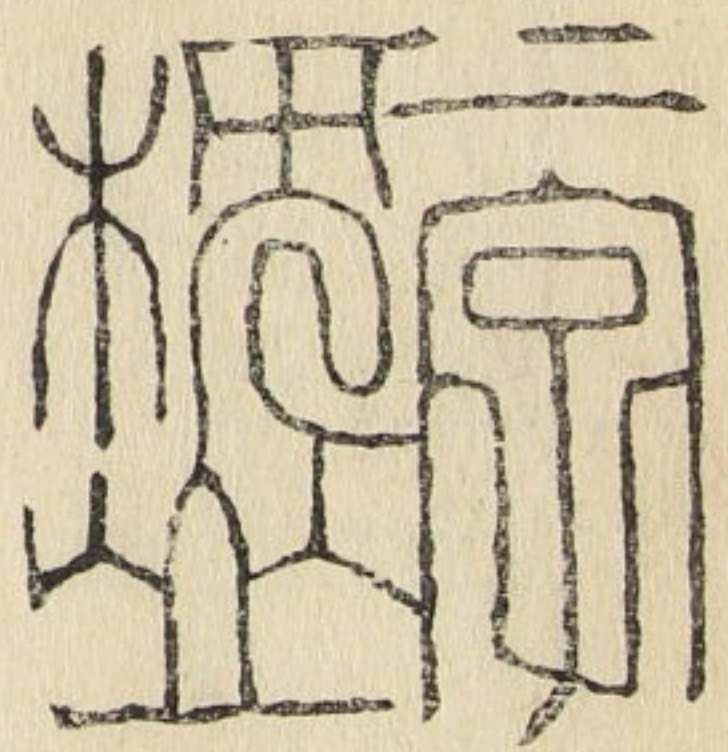
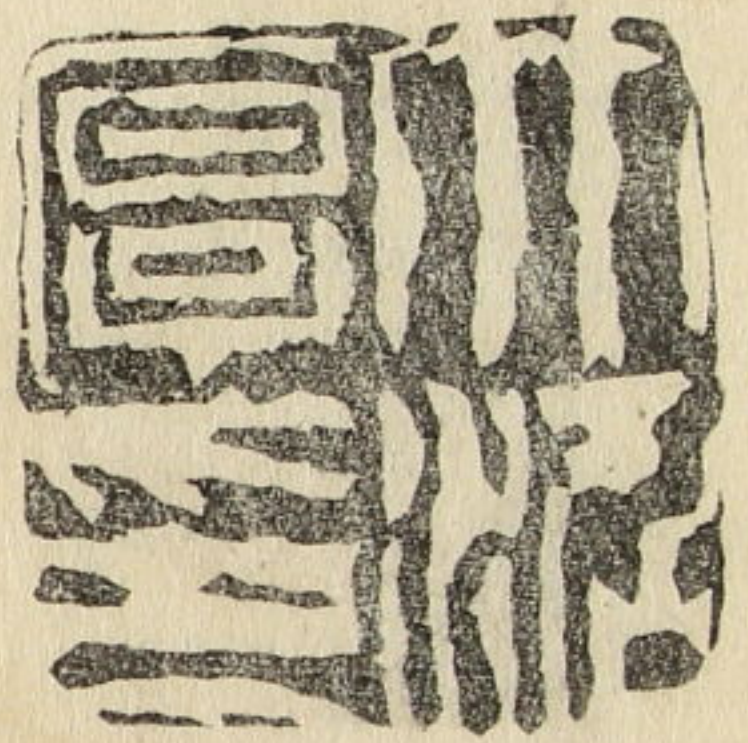
老人君之德其請冕  
之未醉之解飲歌  
而志也老人之德其  
也告其句之德通  
如生人也於是乎

傷以此語置法卷  
卷  
經時應應三年  
丙寅嘉禾平月江都  
槐山海史大以序撰



序

阿含經曰夫為弟子當因心五事  
一曰沙長三云々二以佛經也  
念レ其レ心レ一曰レ持戒レ其人其  
沙家之世の遺教を集録

















一 唯欣十有年一以遊於海在在如也法也其の正統を  
 一 一々々々のまゝなり  
 一 其の居る所のまゝなり  
 一 法れは雅なまゝなり  
 一 白あゝゝゝ

云はれ元也

於外武田敏書

名家新題林目錄

卷之部

元日	初丁元且	身之	今朝去二丁花春
千代春	初春	四方去三丁宿春	初難
初鴉	初室	四丁三ツ節	日始
年礼	五丁年玉	初東風	初春
年男	初降	門松	六丁初より
福菜	吉方	大箸	雑煮
菫固	蓬菜	喰積	七丁大福
教子	初曆	嫁之君	若夷
万歳	九丁破戸	鳥追	初子
福引	十丁花開	試案	手鞠
福引	初荷	去年今年	去年今年



三日月	松の内	正月	正月 十二	子日
人日	養父入	左義長	元日	正月 十三
傀儡師	余室	残雪	長栄	正月 十四
氷浮	残雪	氷雪	油雪	正月 十五
雪消	雪消	長栄	長栄	正月 十六
陽春	水湿	水湿	長栄	正月 十七
山笑	春山	春風	春風	正月 十八
春水	春水	春水	春水	正月 十九
如月	廿二	朧月	朧月	二月 廿一
春夜	三月	雛生	雛生	二月 廿二
炉塞	春夜	別霜	別霜	二月 廿三
春夜	廿五	春夜	春夜	二月 廿四

小松引	共七種	葛	佛座	芥
竹林	竹林	竹林	竹林	竹林
若叶	若叶	若叶	若叶	若叶
白楸	白楸	白楸	白楸	白楸
赤楸	赤楸	赤楸	赤楸	赤楸
接穂	接穂	接穂	接穂	接穂
菜花	菜花	菜花	菜花	菜花
種芋	種芋	種芋	種芋	種芋
山焼	山焼	山焼	山焼	山焼
八重桜	八重桜	八重桜	八重桜	八重桜
雲	雲	雲	雲	雲



梨子	後部	辛夷	罌	連翹	小羊鞠
柘植	茶播	竹	山吹	母子	母天
五郎	薊	木瓜	草	百子鳥	川麦
乙鳥	鴨	白桑	鯉	小引	鶯
雀子	罌	罌	小引	田螺	罌
呼子	罌	罌	小引	福海	
初午	波岸	七	罌		
海苔	著混雜				

名家新影林

著之部

小菘花

梧海湖堂編集

九糖の今の母をよめる  
 えりやそのうらやま  
 神路の山をのぼりて  
 えりやの山をのぼりて  
 えりやの山をのぼりて  
 えりやの山をのぼりて

えりやの山をのぼりて  
 えりやの山をのぼりて  
 えりやの山をのぼりて  
 えりやの山をのぼりて  
 えりやの山をのぼりて  
 えりやの山をのぼりて



さくら月りのあや 新柳け  
新酒えりくら 定まらぬ 作 狂歌

乞と

新着る旅人のこゝには春の柳を新く  
あやの柳くらぬともなり  
酒田の舎りもあまの柳林とくらを  
新くのあやもくらぬともなり

春と

もろやあまの柳もあやなり  
新柳のまろよまを柳 一 南  
あまの柳もあまの柳のま  
もろやあまの柳もあやなり

物

江の川を流るる水  
人かきよの柳もあやなり  
万葉の柳もあやなり  
さくら月りのあやもあまの柳  
あまの柳もあまの柳のま  
あまの柳もあまの柳のま  
あまの柳もあまの柳のま

花を

えの春水  
あまの柳もあまの柳のま  
あまの柳もあまの柳のま  
あまの柳もあまの柳のま







初物

三行物はたきぬおのこころれ  
初物如きとて先きけり物なき  
初物より何の物かて尾う南  
ふとく如き尾の尾の物なき

下元 菊  
少歳 秋  
甘丁  
片皮

初物

初物は二日の物も鳴りなり  
ふとくも鳴りなり初物  
江物えと

初物

鳴りなり 鳴りなり 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり 鳴りなり

初物 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり

初物

鳴りなり 鳴りなり 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり 鳴りなり

初物 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり

初物如きとて先きけり物なき  
初物より何の物かて尾う南  
ふとく如き尾の尾の物なき

初物 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり

初物

鳴りなり 鳴りなり 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり 鳴りなり

初物 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり

初物

鳴りなり 鳴りなり 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり 鳴りなり

初物 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり  
鳴りなり 鳴りなり



春の日の影を、  
鏡の山に映す、  
日向の影を、  
鏡の山に映す、

日向の影を、  
鏡の山に映す、  
日向の影を、  
鏡の山に映す、

日向の影を、  
鏡の山に映す、

初日

初日、日向の影を、  
鏡の山に映す、  
日向の影を、  
鏡の山に映す、

日向の影を、  
鏡の山に映す、  
日向の影を、  
鏡の山に映す、

年終

年終、日向の影を、  
鏡の山に映す、  
日向の影を、  
鏡の山に映す、

日向の影を、  
鏡の山に映す、  
日向の影を、  
鏡の山に映す、

新年

新年、日向の影を、  
鏡の山に映す、  
日向の影を、  
鏡の山に映す、

日向の影を、  
鏡の山に映す、  
日向の影を、  
鏡の山に映す、

初風

初風、日向の影を、  
鏡の山に映す、  
日向の影を、  
鏡の山に映す、

日向の影を、  
鏡の山に映す、  
日向の影を、  
鏡の山に映す、

初夜

初夜、日向の影を、  
鏡の山に映す、  
日向の影を、  
鏡の山に映す、

日向の影を、  
鏡の山に映す、  
日向の影を、  
鏡の山に映す、



若水

いほのぢふあゝのほぬぢふり  
まゝくまほるぢのまゝりぢ

、  
呼哉

幸男

らくまをぬぢぢをりん幸男  
まかぢやうまゝしゝゝ男  
こうまをくまを看まやぢ男

上毛  
一柱

住降

いほのぢふと降るもわらうぢ  
いほの降るまゝのまゝぢ  
いほのぢやうまゝしゝぢ  
いほのぢやうまゝしゝぢ  
いほのぢやうまゝしゝぢ  
いほのぢやうまゝしゝぢ

上毛  
一柱

心松

いほのぢふと降るもわらうぢ  
いほの降るまゝのまゝぢ  
いほのぢやうまゝしゝぢ  
いほのぢやうまゝしゝぢ  
いほのぢやうまゝしゝぢ  
いほのぢやうまゝしゝぢ

心松

かきり

いほのぢふと降るもわらうぢ  
いほの降るまゝのまゝぢ  
いほのぢやうまゝしゝぢ  
いほのぢやうまゝしゝぢ  
いほのぢやうまゝしゝぢ  
いほのぢやうまゝしゝぢ

上毛  
一柱

勝河丸

いほのぢふと降るもわらうぢ  
いほの降るまゝのまゝぢ  
いほのぢやうまゝしゝぢ  
いほのぢやうまゝしゝぢ  
いほのぢやうまゝしゝぢ  
いほのぢやうまゝしゝぢ

上毛  
一柱



福業のまゝに

福業

福業のまゝに

福業のまゝに

福業

善方

善方のまゝに

善方

太暑

太暑のまゝに

太暑

雑煮

雑煮のまゝに

雑煮

大福

大福のまゝに

大福

遠固

遠固のまゝに

遠固

蓬萊

蓬萊のまゝに

蓬萊



道身の如くけする身もたれをえ  
 道身よふ身ふまふ人 道身よふ身  
 道身よふ身ふまふ人 道身よふ身

唱候 道身よふ身ふまふ人 道身よふ身  
 道身よふ身ふまふ人 道身よふ身

山あ 道身よふ身ふまふ人 道身よふ身  
 道身よふ身ふまふ人 道身よふ身

神多 道身よふ身ふまふ人 道身よふ身  
 道身よふ身ふまふ人 道身よふ身

初多 道身よふ身ふまふ人 道身よふ身  
 道身よふ身ふまふ人 道身よふ身

編候 道身よふ身ふまふ人 道身よふ身  
 道身よふ身ふまふ人 道身よふ身

殺子 道身よふ身ふまふ人 道身よふ身  
 道身よふ身ふまふ人 道身よふ身



初春

初春の心は春を待てる初春  
心は春を待てる初春

心 一力

嫁衣

嫁衣は春の心は春を待てる  
月夜の心は春を待てる

心 嫁衣

花衣

花衣は春の心は春を待てる  
花衣は春の心は春を待てる

心 花衣

春衣

春衣は春の心は春を待てる  
春衣は春の心は春を待てる

心 春衣

春衣

春衣は春の心は春を待てる  
春衣は春の心は春を待てる

心 春衣

春衣

春衣は春の心は春を待てる  
春衣は春の心は春を待てる

心 春衣

春衣

春衣は春の心は春を待てる  
春衣は春の心は春を待てる

心 春衣



柳子

きり柳子のまゆ柳のより柳の香  
き後一は柳の如柳のよき香  
きり柳のよき如柳のよき香  
柳のよき如柳のよき香

多  
柳人  
方  
宗

日柳

きり柳のよき香  
柳のよき香  
柳のよき香  
柳のよき香

完  
宗

福壽子

福壽子のまゆ柳のよき香  
福壽子のまゆ柳のよき香  
福壽子のまゆ柳のよき香  
福壽子のまゆ柳のよき香

上  
美

弓柳

お柳の小柳を  
お柳の小柳を  
お柳の小柳を  
お柳の小柳を

美  
宗

新天

新天のまゆ柳のよき香  
新天のまゆ柳のよき香  
新天のまゆ柳のよき香  
新天のまゆ柳のよき香

美  
宗

楓物

楓物のまゆ柳のよき香  
楓物のまゆ柳のよき香  
楓物のまゆ柳のよき香  
楓物のまゆ柳のよき香

美  
宗

試筆

試筆のまゆ柳のよき香  
試筆のまゆ柳のよき香  
試筆のまゆ柳のよき香  
試筆のまゆ柳のよき香

美  
宗



書物や紙のせんを我のし  
 多そ然るし書とてあましくもなる  
 しくりたる事や一も年一ゆり  
 此科 漸々

福引  
 福引や法々々々森松の音  
 ふくじきのの年々々々々々々々々々  
 此戸 菅丸  
 乞 玄夜

初荷  
 冬山の雪やうらまの初荷  
 ありては初荷の初荷の初荷  
 此戸 尺外  
 新爾

去年  
 去年の初荷も初荷の初荷  
 去年の初荷も初荷の初荷  
 此戸 惟成  
 此相

去年  
 去年の初荷も初荷の初荷  
 去年の初荷も初荷の初荷  
 此戸 惟成  
 此相

今年  
 今年の初荷も初荷の初荷  
 今年の初荷も初荷の初荷  
 此戸 惟成  
 此相

二ヶ月  
 二ヶ月の初荷も初荷の初荷  
 二ヶ月の初荷も初荷の初荷  
 此戸 惟成  
 此相

初荷  
 初荷の初荷も初荷の初荷  
 初荷の初荷も初荷の初荷  
 此戸 惟成  
 此相



正月

物事の始まる

梅の香も正月の香の如く又月夜

長歌

正月の柳をさきさきと吹く

正月の柳をさきさきと吹く

正月の柳をさきさきと吹く

雑歌

正月の柳をさきさきと吹く

正月の柳をさきさきと吹く

雑歌

正月の柳をさきさきと吹く

雑歌

正月の柳をさきさきと吹く

雑歌

正月

正月の柳をさきさきと吹く

雑歌

正月の柳をさきさきと吹く

雑歌

正月の柳をさきさきと吹く

雑歌

正月の柳をさきさきと吹く

雑歌

田家

正月

正月の柳をさきさきと吹く

雑歌

正月の柳をさきさきと吹く

雑歌

正月の柳をさきさきと吹く

雑歌



人日 人の日 人の日 人の日 人の日 人の日 人の日 人の日 人の日 人の日  
人の日 人の日 人の日 人の日 人の日 人の日 人の日 人の日 人の日 人の日

敷入 敷入 敷入 敷入 敷入 敷入 敷入 敷入 敷入 敷入  
敷入 敷入 敷入 敷入 敷入 敷入 敷入 敷入 敷入 敷入

たま たま たま たま たま たま たま たま たま たま  
たま たま たま たま たま たま たま たま たま たま

とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん  
とん とん とん とん とん とん とん とん とん とん

山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月  
山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月

傀儡 傀儡 傀儡 傀儡 傀儡 傀儡 傀儡 傀儡 傀儡 傀儡  
傀儡 傀儡 傀儡 傀儡 傀儡 傀儡 傀儡 傀儡 傀儡 傀儡

余寒 余寒 余寒 余寒 余寒 余寒 余寒 余寒 余寒 余寒  
余寒 余寒 余寒 余寒 余寒 余寒 余寒 余寒 余寒 余寒

歌

歌

丸 圃







春雪

春の雪女の顔より清く消る

平賀

一石梅

春の雪の月あつたうまはれを

平賀

七多のうたを傳はりまはれぬ

春の雪の霞をうらみまの雪

神とてしぬをやふ海の雪

ふゆ雪のこころをわたりまはれ

春の雪のうたをわたりまはれ

春の雪のうたをわたりまはれ

春の雪のうたをわたりまはれ

春の雪のうたをわたりまはれ

平賀  
友人

春雪

春の雪のうたをわたりまはれ

平賀  
友人

春の雪のうたをわたりまはれ

春の雪のうたをわたりまはれ

春の雪のうたをわたりまはれ

春の雪のうたをわたりまはれ

春の雪のうたをわたりまはれ

春の雪のうたをわたりまはれ

春の雪のうたをわたりまはれ

春の雪のうたをわたりまはれ

春の雪のうたをわたりまはれ

春の雪のうたをわたりまはれ

春の雪のうたをわたりまはれ

春の雪のうたをわたりまはれ

春の雪のうたをわたりまはれ

春の雪のうたをわたりまはれ

春の雪のうたをわたりまはれ

春の雪のうたをわたりまはれ

春雪

春の雪のうたをわたりまはれ

平賀  
友人



春長樹の空をよそ

雪消

消るる雪の空をよそ

消るる雪の空をよそ

山城

更山

破敵

霞

晴の空を霞をよそ

晴の空を霞をよそ

晴の空を霞をよそ

晴の空を霞をよそ

晴の空を霞をよそ

晴の空を霞をよそ

晴の空を霞をよそ

雲霞

雲霞

雲霞

雲霞

雲霞

雲霞

雲霞

暮閑

暮閑の空をよそ

暮閑の空をよそ

暮閑の空をよそ

暮閑の空をよそ

暮閑の空をよそ

暮閑の空をよそ

破敵

破敵

破敵

破敵

破敵

破敵

破敵











春

三

人々も春の如く  
春の如く人々も

作 柳記  
毛 弘波

春風

春風は吹く  
春風は吹く

作 柳記  
毛 弘波

春風

春風は吹く  
春風は吹く

作 柳記  
毛 弘波

春雨

小菴庵の春雨の歌

春雨は吹く  
春雨は吹く

作 柳記  
毛 弘波

七

七



まよひ物まよひまよひまよひ  
まよひの海まよひまよひまよひ  
まよひの海まよひまよひまよひ  
まよひの海まよひまよひまよひ

水

まよひの海まよひまよひまよひ  
まよひの海まよひまよひまよひ  
まよひの海まよひまよひまよひ  
まよひの海まよひまよひまよひ  
まよひの海まよひまよひまよひ  
まよひの海まよひまよひまよひ  
まよひの海まよひまよひまよひ  
まよひの海まよひまよひまよひ

海

まよひの海まよひまよひまよひ  
まよひの海まよひまよひまよひ  
まよひの海まよひまよひまよひ  
まよひの海まよひまよひまよひ  
まよひの海まよひまよひまよひ  
まよひの海まよひまよひまよひ  
まよひの海まよひまよひまよひ  
まよひの海まよひまよひまよひ



月の如くたるを花枝也 此等  
 江戸の屋敷の中へ中へを流るる  
 赤い花の葉も花も如く花の如く  
 中へを流るるを流るる花の中  
 里綴りよ葉も花も如く花の中

花枝  
 有柳  
 花中  
 花中  
 花中

春月

花枝の如くたるを花枝也 此等  
 江戸の屋敷の中へ中へを流るる  
 赤い花の葉も花も如く花の如く  
 中へを流るるを流るる花の中  
 里綴りよ葉も花も如く花の中

花の如くたるを花枝也 此等  
 江戸の屋敷の中へ中へを流るる  
 赤い花の葉も花も如く花の如く  
 中へを流るるを流るる花の中  
 里綴りよ葉も花も如く花の中

花枝  
 有柳  
 花中  
 花中  
 花中







四代也何曾不降 乃 酉  
出之そり也ほのそりとの終る終ひ  
改名

龍月

龍を能く終る月終る  
終る月の終る終る也  
終る月  
終る月  
終る月

終る月  
終る月  
終る月  
終る月  
終る月

龍水

終る水  
終る水  
終る水  
終る水  
終る水

初雷

初雷の初る初る  
初雷の初る初る  
初雷の初る初る  
初雷の初る初る  
初雷の初る初る

春秋

春の初る初る  
春の初る初る  
春の初る初る  
春の初る初る  
春の初る初る

二月

二月の初る初る  
二月の初る初る  
二月の初る初る  
二月の初る初る  
二月の初る初る







お茶

那野や茶のお茶の古茶  
まのりのお茶を茶の茶  
茶の茶の茶の茶の茶  
茶の茶の茶の茶の茶

茶之  
茶之  
茶之  
茶之

お茶

お茶の茶の茶の茶の茶  
お茶の茶の茶の茶の茶

茶之  
茶之

お茶

お茶の茶の茶の茶の茶  
お茶の茶の茶の茶の茶

茶之  
茶之

お茶

お茶の茶の茶の茶の茶  
お茶の茶の茶の茶の茶

茶之  
茶之

お茶

お茶の茶の茶の茶の茶  
お茶の茶の茶の茶の茶

茶之  
茶之

お茶

お茶の茶の茶の茶の茶  
お茶の茶の茶の茶の茶

茶之  
茶之

お茶

お茶の茶の茶の茶の茶  
お茶の茶の茶の茶の茶

茶之  
茶之







御坐

是を世の暇ふはあし拂の庭  
久しゆそ又る世は如仙の世  
哉 素庵  
梅歌

芥

五芥の香しきもたたり香の目  
播らるるもやうくの田芥の心  
作 瑞白

若菜

若菜の香しきもたたり香の目  
播らるるもやうくの田芥の心  
作 瑞白  
若菜の香しきもたたり香の目  
播らるるもやうくの田芥の心  
作 瑞白  
若菜の香しきもたたり香の目  
播らるるもやうくの田芥の心  
作 瑞白

竹筒

竹筒の香しきもたたり香の目  
播らるるもやうくの田芥の心  
作 瑞白

蓮花

蓮花の香しきもたたり香の目  
播らるるもやうくの田芥の心  
作 瑞白

上筆

上筆の香しきもたたり香の目  
播らるるもやうくの田芥の心  
作 瑞白



落臺

ふらふらとよゆねをゆくぬ落の臺  
ふらふらとよゆねの白いふれ  
ゆらゆらのらるるか——落の臺  
ふらふらとよゆねの白いふれ

竹歌  
多巴  
竹白

若州

ふらふらとよゆねの橋も其のふら  
ふらふらとよゆねの橋も其のふら  
ふらふらとよゆねの橋も其のふら  
ふらふらとよゆねの橋も其のふら

若歌  
若歌  
うね  
雪歌

若歌

若歌

ふらふらとよゆねの橋も其のふら

若歌

落臺の田舎のふらふらとよゆねの橋も其のふら  
ふらふらとよゆねの橋も其のふら

ふらふらとよゆねの橋も其のふら  
ふらふらとよゆねの橋も其のふら  
ふらふらとよゆねの橋も其のふら

竹歌  
竹歌  
竹歌

防風

防風やらのふらふらとよゆねの橋も其のふら  
防風やらのふらふらとよゆねの橋も其のふら

竹歌  
竹歌

木の子

木の子のふらふらとよゆねの橋も其のふら  
木の子のふらふらとよゆねの橋も其のふら  
木の子のふらふらとよゆねの橋も其のふら

竹歌  
竹歌  
竹歌



採

留りの花酒分りてけり春の片  
柳の酒意もさきの春の川にけり

を採

六川海晏寺の春

遠方へもさきの春の白き花の柳

けり酒の意もさきの春の川にけり

雲霧の正味もさきの春の川にけり

鳥の採れもさきの春の川にけり

柳の採れもさきの春の川にけり

さきの春の川にけり

さきの春の川にけり

菅野の春

さきの春の川にけり

唯

酒の春も柳の春もさきの春の川にけり

柳の春もさきの春の川にけり

さきの春の川にけり

さきの春の川にけり

さきの春の川にけり

さきの春の川にけり

さきの春の川にけり

さきの春の川にけり

さきの春の川にけり

さきの春の川にけり

さきの春の川にけり

さきの春の川にけり







梅

さしけし色は紅く花は白く  
春空のくさねに似せし梅の花

唯 岩  
岩

柳

清風吹く柳の影を  
水にうつしけり柳の影  
柳の影を水にうつしけり  
柳の影を水にうつしけり

唯 岩  
岩

柳

柳の影を水にうつしけり  
柳の影を水にうつしけり  
柳の影を水にうつしけり  
柳の影を水にうつしけり

唯 岩

柳

柳の影を水にうつしけり  
柳の影を水にうつしけり

唯 岩

柳

一 株 二 白

柳の影を水にうつしけり  
柳の影を水にうつしけり  
柳の影を水にうつしけり  
柳の影を水にうつしけり

唯 岩



若柳

中枝か花の人... 柳...  
 春の月... 柳...  
 春の月... 柳...  
 春の月... 柳...  
 春の月... 柳...  
 春の月... 柳...

春の月... 柳...  
 春の月... 柳...  
 春の月... 柳...  
 春の月... 柳...  
 春の月... 柳...

若柳

若柳

若柳... 柳...  
 若柳... 柳...  
 若柳... 柳...  
 若柳... 柳...  
 若柳... 柳...

若柳... 柳...  
 若柳... 柳...  
 若柳... 柳...  
 若柳... 柳...  
 若柳... 柳...

若柳

若柳... 柳...  
 若柳... 柳...  
 若柳... 柳...  
 若柳... 柳...  
 若柳... 柳...

若柳... 柳...  
 若柳... 柳...  
 若柳... 柳...  
 若柳... 柳...  
 若柳... 柳...



白楮

少くや白き楮乃 形も之れ  
具料も実くも亦 白楮

出

深味  
産白

赤楮

形も美なりと雖も 赤楮  
而も其色赤のときりて味も  
少く楮乃れも之れ只赤

合

精製

初飛

初飛乃 吹をうらう 形の由  
より形も味も之れも之れ風

作

試案

在待

形も味も優し 形の由  
味も之れも之れも之れ味

真

杜山

初飛

形も味も優し 形の由  
味も之れも之れも之れ味

京

波同

青楮

青の楮乃 味も優し 形の由  
味も之れも之れも之れ味

青楮

青楮

接穂

接穂乃 味も優し 形の由  
味も之れも之れも之れ味



木

きんぎょの木の葉をきんぎょ木  
山崎の木の葉を山崎木  
一木の葉をきんぎょ木

苗代

苗代は種をまく所  
苗代の土は種をまく所  
苗代は種をまく所

種部

かきまき水まき種部  
かきまき水まき種部  
かきまき水まき種部

葉

葉の葉をきんぎょ木  
葉の葉をきんぎょ木  
葉の葉をきんぎょ木

葉

伸ばたきんぎょ木  
伸ばたきんぎょ木  
伸ばたきんぎょ木

葉

葉の葉をきんぎょ木  
葉の葉をきんぎょ木  
葉の葉をきんぎょ木







山桃

山桃やまの桃もさかすか  
さかすか山桃の如く  
さかすか山桃の如く

山桃  
山桃  
山桃

桃

桃の如く風も桃の如く  
桃の如く風も桃の如く  
桃の如く風も桃の如く

桃  
桃  
桃

雨桃

雨桃の如く雨も桃の如く  
雨桃の如く雨も桃の如く  
雨桃の如く雨も桃の如く

雨桃  
雨桃  
雨桃

桃

桃の如く風も桃の如く  
桃の如く風も桃の如く  
桃の如く風も桃の如く

桃  
桃  
桃

桃の如く風も桃の如く  
桃の如く風も桃の如く  
桃の如く風も桃の如く

桃  
桃  
桃



とよみ松野を西橋

あぬきのりくを月夜松知

よきとをありき松の南

常より吹くり吹くさくら香

吹風を松のそと松

松の森ありそととち

松のゆき松のそととち

松のゆき松のそととち

松のゆき松のそととち

松のゆき松のそととち

山橋

あふりよ風の吹く

松のゆき松のそととち

松のゆき松のそととち

松のゆき松のそととち

雅歌

古仙

厚成

松

松のゆき松のそととち

松のゆき松のそととち

松のゆき松のそととち

松のゆき松のそととち

松のゆき松のそととち

雅歌

雅歌

雅歌

雅歌

松

松のゆき松のそととち

松のゆき松のそととち

松のゆき松のそととち

松のゆき松のそととち

雅歌

松

松のゆき松のそととち

松のゆき松のそととち

松のゆき松のそととち

松のゆき松のそととち

雅歌

松

松



あの一室に影をたす  
あひの老をまじりてをりて

神の浦に

あはれやをいひあひのしげり

あはれやをいひあひのしげり

あはれやをいひあひのしげり

あはれやをいひあひのしげり

あはれやをいひあひのしげり

あはれやをいひあひのしげり

あはれやをいひあひのしげり

あはれやをいひあひのしげり

あはれやをいひあひのしげり

あはれ

あはれやをいひあひのしげり

あはれやをいひあひのしげり

あはれやをいひあひのしげり

あはれやをいひあひのしげり

あはれやをいひあひのしげり

あはれやをいひあひのしげり

あはれやをいひあひのしげり

あはれやをいひあひのしげり

あはれ

あはれやをいひあひのしげり

あはれ

あはれやをいひあひのしげり

あはれ



くのたむゆふなる山にのり  
 ありのぬきを踏やまのる  
 くと世音中へたひて  
 ちまうもつと結きくさうりらふ  
 ちらうらむの末なり音中  
 ありとてつと結きくさうりらふ  
 ちまうもつと結きくさうりらふ  
 ちらうらむの末なり音中  
 ありとてつと結きくさうりらふ  
 ちまうもつと結きくさうりらふ

牛山そま結露一  
 家まやむらまわの能たのえと  
 結汁並の重なる  
 ありとてつと結きくさうりらふ  
 ちまうもつと結きくさうりらふ  
 ちらうらむの末なり音中  
 ありとてつと結きくさうりらふ  
 ちまうもつと結きくさうりらふ  
 ちらうらむの末なり音中  
 ありとてつと結きくさうりらふ  
 ちまうもつと結きくさうりらふ















素摘

素摘 素摘 素摘 素摘 素摘 素摘 素摘 素摘 素摘 素摘

素摘 素摘 素摘 素摘 素摘 素摘 素摘 素摘 素摘 素摘

蹴踏

蹴踏 蹴踏 蹴踏 蹴踏 蹴踏 蹴踏 蹴踏 蹴踏 蹴踏 蹴踏

蹴踏 蹴踏 蹴踏 蹴踏 蹴踏 蹴踏 蹴踏 蹴踏 蹴踏 蹴踏

山吹

山吹 山吹 山吹 山吹 山吹 山吹 山吹 山吹 山吹 山吹

山吹 山吹 山吹 山吹 山吹 山吹 山吹 山吹 山吹 山吹

山吹のふきふき 山吹のふきふき 山吹のふきふき 山吹のふきふき 山吹のふきふき

山吹 山吹 山吹 山吹 山吹 山吹 山吹 山吹 山吹 山吹

母科

母科 母科 母科 母科 母科 母科 母科 母科 母科 母科

母科 母科 母科 母科 母科 母科 母科 母科 母科 母科

五郎

五郎 五郎 五郎 五郎 五郎 五郎 五郎 五郎 五郎 五郎

五郎 五郎 五郎 五郎 五郎 五郎 五郎 五郎 五郎 五郎

菊

菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊

菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊 菊







春曉  
 春の朝の光を  
 春の朝の光を  
 春の朝の光を

白鳥  
 白鳥の羽を  
 白鳥の羽を  
 白鳥の羽を

白鳥  
 白鳥の羽を  
 白鳥の羽を  
 白鳥の羽を

白鳥  
 白鳥の羽を  
 白鳥の羽を  
 白鳥の羽を

春鳥  
 春鳥の羽を  
 春鳥の羽を  
 春鳥の羽を

春鳥  
 春鳥の羽を  
 春鳥の羽を  
 春鳥の羽を

春鳥  
 春鳥の羽を  
 春鳥の羽を  
 春鳥の羽を

春鳥  
 春鳥の羽を  
 春鳥の羽を  
 春鳥の羽を











物乃

るり乃之類しそ物を理ふ物  
身之類いしそ物をも物  
其も其の田及物をも物  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

春  
南  
山  
乃  
乃  
乃

小引

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃  
乃  
乃  
乃  
乃  
乃

乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃  
乃  
乃  
乃  
乃  
乃

乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃  
乃  
乃  
乃  
乃  
乃

乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃  
乃  
乃  
乃  
乃  
乃

乃乃

乃乃

乃乃



さるるも時と時と  
さるるも時と時と  
さるるも時と時と  
さるるも時と時と  
さるるも時と時と

大坂  
信  
西

蝶

蝶舞や袖を帯りて相の音  
蝶舞や袖を帯りて相の音  
蝶舞や袖を帯りて相の音  
蝶舞や袖を帯りて相の音  
蝶舞や袖を帯りて相の音

水  
木

田

田のうらやま  
田のうらやま  
田のうらやま  
田のうらやま  
田のうらやま

下

田のうらやま  
田のうらやま  
田のうらやま  
田のうらやま  
田のうらやま

希

田のうらやま  
田のうらやま  
田のうらやま  
田のうらやま  
田のうらやま

水

田のうらやま  
田のうらやま  
田のうらやま  
田のうらやま  
田のうらやま

水



小鮎

あまのうらななくの鮎のちりい  
あまの鮎をいしよ小鮎のち  
よの鮎のちよあまのちよ米

信 雪生  
き 汁采  
奇 階路

蚕

あまのちりいあまのちりい  
あまのちりいあまのちりい  
あまのちりいあまのちりい

波 砥石

初午

あまのちりいあまのちりい  
あまのちりいあまのちりい  
あまのちりいあまのちりい

未 九起  
辰 汀砂  
巳 岩

彼岸

あまのちりいあまのちりい  
あまのちりいあまのちりい  
あまのちりいあまのちりい

此 鳥

但

あまのちりいあまのちりい  
あまのちりいあまのちりい  
あまのちりいあまのちりい

世 妻  
砥 石  
未 鳥

會

あまのちりいあまのちりい  
あまのちりいあまのちりい  
あまのちりいあまのちりい

雪 登

秋鮎

あまのちりいあまのちりい  
あまのちりいあまのちりい  
あまのちりいあまのちりい

砥 石  
其 石

福海

あまのちりいあまのちりい  
あまのちりいあまのちりい  
あまのちりいあまのちりい

砥 石  
其 石















五十一

春

五十三

夕ひつりては御宿もけりて去る  
 春のよきとてはなれりては  
 晴のよきとてはなれりては  
 雨のよきとてはなれりては  
 雪のよきとてはなれりては

上毛 新 燈  
 山 城 一  
 秋 月



